

社会資本総合整備計画 事後評価書

平成28年10月18日

計画の名称	14 未来の安全と暮らしを守る道づくり		
計画の期間	平成22年度～平成26年度（5年間）	交付対象	明石市
計画の目標			

道路の危険個所の早期発見と計画的な修繕により、道路の安全性の向上を図り、安全で快適な市民生活を確保する。

計画の成果目標（アウトカム指標）

- ① 交通ネットワークを整備することによる主要施設間を移動するのに要する走行時間（所要時間）の短縮
- ② 歩道設置等により安全で快適な歩行空間を利用することができる歩行者の増加
- ③ 早期対策が必要な橋梁の修繕実施率
- ④ 通学路緊急合同点検で必要とされた歩車分離が実施された道路の増加
- ⑤ 道路利用者が快適に感じる舗装の状態が保持されている道路の増加
- ⑥ 適切な維持管理・更新のための道路ストック毎の点検実施率

アウトカム指標の定義及び算定式

- ① 交通ネットワークとして整備する路線で結ばれる主要施設間を移動するのに要する走行時間（所要時間）の短縮
走行時間の短縮率〔%〕＝（交通ネットワークとして整備された路線での短縮時間/主要な既存路線での所要時間）×100
- ② 歩道整備等、交通安全対策を行った区間における安全で快適な歩行空間を利用する歩行者数
歩行者数〔人/12h〕＝歩道整備等、交通安全対策を行った区間における安全で快適な歩行空間を利用する歩行者数
- ③ 地域の基幹ネットワークにおける橋梁補修実施率
橋梁補修実施率〔%〕＝（補修実施済橋梁数/補修必要橋梁数）×100
- ④ 通学路緊急合同点検で必要とされた歩車分離が必要な道路の歩車分離率
歩車分離率〔%〕＝（歩車分離延長/歩車分離必要延長）×100
- ⑤ 道路利用者が快適に感じる舗装の状態が保持されている道路延長の増加率
道路延長の増加率〔%〕＝（MCI>4に舗装修繕する道路延長/対象路線の道路延長）×100
MCI>4：路面のわだちやひび割れによる振動や騒音が少なく、道路利用者が快適に感じる舗装の状態
- ⑥ 道路ストック総点検対象の道路ストック毎の点検実施率
道路ストック毎の点検実施率〔%〕＝（点検実施済み道路ストック数/点検必要道路ストック数）×100

アウトカム指標の現況値及び目標値

当初現況値 (H22当初)	中間目標値 (H24末)	最終目標値 (H26末)
------------------	-----------------	-----------------

0%	5%	20%
0人/12h	約25,000人/12h	約30,900人/12h
0%	29%	57%
0%	0%	100%
0%	13%	33%
0%	0%	100%

備考

全体事業費	合計 (A+B+C)	1,845 百万円	A	1,719 百万円	B	0 百万円	C	126 百万円	効果促進事業費の割合 C/(A+B+C)	6.8%
-------	---------------	--------------	---	--------------	---	----------	---	------------	-------------------------	------

事後評価（中間評価）

○事後評価（中間評価）の実施体制、実施時期

事後評価（中間評価）の実施体制	明石市において実施	事後評価（中間評価）の実施時期	平成28年度
		公表の方法	明石市のホームページにて公表

1. 交付対象事業の進捗状況

交付対象事業

番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接 間接	事業者	道路種別	省略 工種	要素となる事業名 (事業箇所)	事業内容 (延長・面積等)	市町村名	事業実施期間（年度）					全体事業費 (百万円)	備考
											H22	H23	H24	H25	H26		

14-A1	街路	一般	明石市	直接		S街路	改築	(都)山手環状線(中工区・西工区)	バイパス	L=0.86km	明石市						400
14-A2	街路	一般	明石市	直接		S街路	改築	(都)大坪線(連立)	現道拡幅	L=0.15km	明石市						20
14-A3	街路	一般	明石市	直接		S街路	改築	(都)八木松陰線(谷八木工区)	現道拡幅	L=0.59km	明石市						577
14-A14	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	(他)朝霧165号線外20線(大蔵谷・松が丘ほか)	歩道段差解消・交差点改良	50箇所	明石市						74
14-A15	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	(1)魚住25号線(西岡)	歩道新設	L=0.05km	明石市						150
14-A27	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	明石市魚住駅周辺地区(他)魚住10,14号線(明石市魚住町長坂寺)	歩道整備	L=0.46km	明石市						138
14-A29	道路	一般	明石市	直接		市町村道	修繕	(他)明石中央53号橋外7橋	橋梁補修	8橋	明石市						28
14-A30	道路	一般	明石市	直接		市町村道	修繕	(他)南二見1号線外13路線	舗装修繕	L=0.4km	明石市						78
14-A33	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	魚住118号線外10線(明石市魚住町)	歩道整備	L=0.97km	明石市						13
14-A35	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	二見5号線外10線	歩道整備	L=0.50km	明石市						14
14-A36	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	市内通学路安全対策(市内一円)	歩道整備	L=2.75km	明石市						156
14-A37	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	(他)大久保地内道路外3線	現道拡幅	L=0.29km	明石市						30
14-A38	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	市内踏切安全対策	踏切安全対策	2箇所	明石市						7
14-A39	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	生活道路歩行者安全対策	歩道整備	L=3.00km	明石市						30
14-A40	道路	一般	明石市	直接		市町村道	交安	地下道冠水対策	監視制御設備整備	1箇所	明石市						4
合計																1,719	

B 関連社会資本整備事業

番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	省略工種	要素となる事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考	
										H21	H22	H23	H24	H25			
合計																0	

番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考

C 効果促進事業

番号	事業種別	地域種別	交付団体	直接間接	事業主体	省略工種	要素となる事業名	事業内容(延長・面積等)	市町村名	事業実施期間(年度)					全体事業費(百万円)	備考
										H22	H23	H24	H25	H26		
14-C8	道路	一般	明石市	直接	明石市		路面下空洞等対策事業	空洞調査	L=76km	明石市						25
14-C9	道路	一般	明石市	直接	明石市		自転車利用のあり方検討	活用方策等の方針検討		明石市						9
14-C10	道路	一般	明石市	直接	明石市		道路ストックの総点検(橋梁)	橋梁点検	207橋	明石市						43
14-C11	道路	一般	明石市	直接	明石市		道路ストックの総点検(道路付属物)	道路付属物点検	5527箇所	明石市						28
14-C12	道路	一般	明石市	直接	明石市		道路ストックの総点検(道路のり面工・土工構造物)	法面等点検	102箇所	明石市						11
14-C13	道路	一般	明石市	直接	明石市		長寿命化修繕計画策定事業(182橋)	橋梁点検	182橋	明石市						10
合計																126

番号	一体的に実施することにより期待される効果															備考
14-C8	14-A30の舗装修繕とあわせて路面下空洞調査を行うことにより、より安全で快適な走行空間確保が可能となる。															
14-C9	14-A36の歩道整備とあわせて自転車利用のあり方を検討することにより、より安全で快適な自転車利用環境の確保が可能となる。															
14-C10	14-A29の橋梁補修とあわせて実施することにより、より安全で快適な道路ストック(橋梁)の確保が可能となる。															

14-C11	14-A30の舗装修繕とあわせて実施することにより、より安全で快適な道路ストック（道路付属物）の確保が可能となる。	
14-C12	14-A36の歩道整備とあわせて実施することにより、より安全で快適な道路ストック（道路のり面工・土工構造物）の確保が可能となる。	
14-C13	14-A29の橋梁補修とあわせて実施することにより、より安全で快適な道路ストック（橋梁）の確保が可能となる。	

2. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	・特に通学路においては歩道などの設置するをすることにより、安全な歩行空間が確保できた。			
--------------------------------	---	--	--	--

II 定量的指標の達成状況	指標①（走行時間の短縮率）	最終目標値	20%	目標値と実績値に差が出た要因	用地買収困難箇所により、整備が遅れた路線があったため、走行時間の短縮が半分程度の値となった。
		最終実績値	9%		
	指標②（安全で快適な歩行空間を利用する歩行者数）	最終目標値	30,900人	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成し、安全で快適な歩行空間を利用する歩行者数が増加したと評価できる。
		最終実績値	33,700人		
	指標③（橋梁補修実施率）	最終目標値	57%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値には達しなかったが、早期に対策が必要な橋梁については補修を完了することができた。
		最終実績値	43%		
	指標④（歩車分離率）	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成し、歩車分離を着実にすすめることができた。
		最終実績値	100%		
	指標⑤（舗装の状態が保持されている道路延長の増加率）	最終目標値	33%	目標値と実績値に差が出た要因	予算不足により目標値は達成できなかったが、舗装の状態が保持されている道路延長は着実に増加している。
		最終実績値	19%		
	指標⑥（道路ストックの点検率）	最終目標値	100%	目標値と実績値に差が出た要因	目標値を達成し、適切な維持管理が行われた。
		最終実績値	100%		

III 定量的指標以外の交付対象事業の効果の発現状況 (必要に応じて記述)	
--	--

3. 特記事項（今後の方針等）

今後も継続的な交通安全対策や計画的な修繕を実施することにより、道路の安全性の向上を図り、安全な市民生活を確保する。

